



書評

[評者]

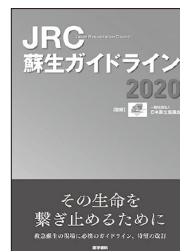
小林 欣夫

千葉大学大学院教授・
循環器内科学

JRC 蘇生ガイドライン 2020

一般社団法人 日本蘇生協議会 監修

●A4 頁532 2021年6月
定価：5,500円(本体5,000円+税)
[ISBN978-4-260-04637-4] 医学書院刊



心肺蘇生は待ったなしです。心肺蘇生の開始が1分遅れるごとに救命率が10%低下すると報告されています。このために的確な心肺蘇生を行い、命を救わなくてはなりません。しかしながら、それだけでは不十分です。命を救うとともに、高次脳機能障害などを起こさせない、またはなるべく軽くしなくてはなりません。このために心肺蘇生を行う人の技量・知識が非常に重要です。

日本蘇生協議会(JRC)は、医学系の18の学術団体と救急・蘇生教育を推進する関連5団体の計23団体で構成されている救急蘇生科学に関するプロフェッショナル集団です。2002年に設立され、心肺蘇生法に関する世界的なガイドライン作成の日本の窓口として国際蘇生連絡委員会に参画しています。国際蘇生連絡委員会は蘇生関連のトピックに関してエビデンスを網羅的検索・解析し、国際的なガイドライン作成方法であるGRADEシステムを用いてガイドラインを作成しており、これは国際標準となっています。日本蘇生協議会もこれに基づいて2010年、2015年にガイドラインを作成し、この度5年ぶりの改訂版の出版となりました。

一次救命処置(BLS)、二次救命処置(ALS)

はもちろんのこと、一般の医療者においては馴染みの少ない新生児、小児、妊産婦の蘇生も詳細に記されています。蘇生領域で非常に重要な急性冠症候群、脳神経蘇生の項目も充実しています。また、ファーストエイド、普及・教育のための方策、さらには昨今問題となっている新型コロナウイルス感染症への対策まで、蘇生領域のすべてが網羅されています。

本書は一目でわかる非常に実用的な蘇生のアルゴリズムが、それぞれの状況ごとに示され、アルゴリズム内の項目ごとに詳細な解説がなされています。また、臨床の現場で問題となることがクリニカルクエスションとして提示され、これに対する推奨と提案が記載され、引き続きエビデンス、JRCの見解、今後の課題が示されています。救急蘇生の全てが理解できる、最新の国際標準の蘇生ガイドラインです。

本書は蘇生のバイブルとして、初学者からエキスパートまで幅広く役立つものがあります。わが国における救命率の向上のために、一般市民、医療関係者における心肺蘇生の標準化・普及啓発のために、多くの方に本書をご活用していただけることを望んでいます。